

講義名	教養特講（自己発見とキャリア開発）			
担当教員	南木 睦彦			
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 3時限	授業形態	講義	
履修開始年次	1年生	単位数	2	備考

主題と概要

このシラバスは2021年2月に対面授業を前提に作成している。新型コロナウイルス感染症の状況によってはシラバスの修正の可能性がある。前期と同様に「対面のみ実施」「対面とオンデマンドの並行実施」の2タイプが実施される場合は、「対面のみ実施」の科目として実行する予定である。ただし、この科目を取得できないと卒業できない学生もいるので、「通学困難届」を提出した学生にも向らかの配慮により、履修・修得が可能なように配慮する予定である。

流通科学大学では4年間の教育課程の初めに「気づきの教育」を置いている。気づきの教育の目的は、自発的で積極的な行動を伴う多数の経験を通して得られる様々な「気づき」から、一人一人の「なりたいたい自分（夢の種）」を探し、それに応じて本学での4年間の学びをより充実させ、意義あるものにするところである。「気づきの教育」の幹となる必修科目として「自己発見とキャリア開発」を置いている。教養特講「自己発見とキャリア開発」は、「自己発見とキャリア開発」を志望する学生に対して開講して、同様の教育目的を達成しようとするものである。この科目は2単位なので、「自己発見とキャリア開発A」（8単位）のうち、主要な要素について盛り込み、同様の学修目的を達成しようとするものである。すなわち、大学での学びや社会に出てからの基礎となる能力について、気づいて向上させる。気づきや、ならびにその関連性について自らに即して気づく。それらを踏まえて、将来の夢や目標をつかみ、将来を見据えた「4年間の学びの道筋（キャリアビジョン）」を作成する。

到達目標

6つの基礎能力の必要性に気づき、自分の現状を知り、向上させることができるようになる。また今後の継続的な向上のきっかけをつかんでおり、向上し続けることができるようになる。（6つの基礎能力とは、「コミュニケーション力」「危機力」「グループワーク力」「気づき力」「創造力」「学び力」。）

「職」「学び」「両者の関係性」について、自分自身に即して様々な気づきを得て、理解できるようにする。

様々な気づきに基づき、自分自身に即して考えた上で、自分自身の将来の夢や目標を持ち、将来を見据えた「4年間の学びの道筋（キャリアビジョン）」を獲得できるようにする。

提出課題

毎回の授業終了時に、その日の成果の概要をまとめて提出する。このほかに別途課題を出す場合がある。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

提出物については授業中に講評・解説する。

評価の基準

各プログラムへの取り組み姿勢と上記の ー の到達目標が達成されたかどうかによって成績評価する。

取り組み姿勢については、出席状況や取り組みの態度、積極性、真面目さなどで総合的に評価する。

到達目標が達成されたかどうかは、提出された成果物などで判断することになるが、取り組み姿勢が適切であれば到達目標が達成されるようなプログラムになっている。提出物には自らの気づきを十分反映させ、他者が見て分かる充実したものにすること。

進捗・欠席が多かったり、取り組み姿勢が適切でなければ、低い評価になったり、不合格になったりする。進捗や欠席・まじめでない取り組み姿勢は、自分自身が損をするだけでなく、クラスやグループの他のメンバーに迷惑をかけることになるので避けること。

結局のところ、進捗・欠席をせすまじめに出席して、積極的に各プログラムに取り組みることが、到達目標の達成に結び付き、高い評価を得ることにつながる。

履修にあたっての注意・助言他

この科目に不合格の場合、来年度、再度この科目を履修し修得する必要がある。「自己発見とキャリア開発A」の未履修者は、この科目と、さらに追加で教養科目6単位のを、卒業までに修得する必要がある。この科目は低年次に修得することに意味があるから、早い機会に必ず、修得するようにしていただきたい。1年生後期の時間前までは、学部や学科の重要な科目との重複は避けるようにこの科目が配属されているが、2年以降にまでこの科目を未習得で残っていると、重要な科目との時間前での重複が生じるなどして、4年間で卒業できないことにもなるので、注意すること。

教科書					
.使用しない。					

プリント資料及び参考文献

資料類は基本的には授業時間に配布する。

授業計画

授業計画については、シラバス作成時のプランであり、受講生学生の人数や状況によっては変更する可能性がある。

- 1 科目の目的: アイスブレイク・イントロダクション
- 2 自己発見: 自己分析、コミュニケーション
- 3 自己発見: 自己分析、コミュニケーション
- 4 大学生生活の充実
- 5 大学生生活の充実
- 6 仕事発見
- 7 仕事発見
- 8 仕事発見
- 9 フィールド演習と仕事探し
- 10 将来の夢や目標 コース選び セミ選び
- 11 4年間の目標
 - 1.2 「まとめる力」と「考える力」
 - 1.3 「まとめる力」と「考える力」
 - 1.4 「まとめる力」と「考える力」
- 15 科目のまとめと振り返り

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	イ: PBL（課題解決型学習）		イ: 反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/>	ウ: ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/>	エ: グループワーク
<input type="radio"/>	オ: プレゼンテーション		カ: 実習、フィールドワーク
	キ: その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

1回の講義について、学期ならびに文部科学省の大学設置基準においては、4時間の自己学習が必要とされている。

授業時間外の学修としては、ライブチャットの作成、企業研究、なりたいたい自分に向けての行動計画スライド作成などがあり、それぞれ数時間を要するが、随時授業中に指示をする。この他に参考動画や参考図書を示すので、できるだけ視聴し、阅读していただきたい。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目の修得で、向上し続けることができるようになる6つの「基礎能力」と、本学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力の5項目は次のように関連している。

「コミュニケーション力」「常識力」「学び力」の向上は『「ネアカのひのびへこたれず」の精神をもった人材』に繋がる。「気づき力」と「学び力」の向上は「知識を知恵に転換することができる。論理的思考力を持った人材」に繋がる。「気づき力」と「創造力」の向上は「創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材」に繋がる。「コミュニケーション力」「グループワーク力」「気づき力」「創造力」の向上は「自主・自立の精神を持った人材」に繋がる。「コミュニケーション力」と「グループワーク力」の向上は「仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材」に繋がる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

常に学生間や教員と学生の相互啓発的な刺激の下で授業を行う。この意味でこの授業は基本的に双方向授業である。

実務経験の有無及び活用

備考